

学校法人千葉敬愛学園
千葉敬愛短期大学
機関別評価結果

平成 26 年 3 月 13 日
一般財団法人短期大学基準協会

千葉敬愛短期大学の概要

設置者 学校法人 千葉敬愛学園
理事長 三幣 利夫
学 長 伊藤 勝博
A L O 吉村 真理子
開設年月日 昭和 25 年 4 月 1 日
所在地 千葉県佐倉市山王 1-9

設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
初等教育科		150
	合計	150

専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

なし

通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

機関別評価結果

千葉敬愛短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 26 年 3 月 13 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 24 年 7 月 11 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、昭和 25 年に創立され、小学校・幼稚園教諭の養成を目的として教育を行ってきており、平成 13 年 4 月に、保育士養成課程を設置した。建学の精神である「敬天愛人」が確立され、学生には 1 年生全員を対象とした学外オリエンテーションにおける学長講話、職員には「互礼会」などの機会を通じて明示されている。

教育目的・目標として小学校・幼稚園教諭及び保育士の養成を掲げ、人格形成等を目標とした基礎科目と教員養成・保育者養成の専門科目をバランスよく配置し、建学の精神を生かした教育課程を編成している。さらに、学習成果に関するアンケート「学生実態調査」等により学習成果を定量的・定性的に把握し測定するとともに、改善を行い教育の質保証に努めている。

また、自己点検・評価のための規程や委員会が整備され、各委員会を単位として自己点検・評価を実施している。年度末には年間事業計画に基づいて委員会ごとに事業評価し、その結果を基に次年度の計画等を設定しており、全学的な取り組みが行われている。

学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受け入れの方針は明確に規定され、短期大学案内等に明示されている。小学校・幼稚園教諭及び保育士養成を目標に学習成果の柱として「二つ以上の免許・資格の取得」が設定され、教育課程編成・実施の方針及び入学者受け入れの方針はこの学習成果を中心に構成されている。

授業改善の取り組みとして教員間の相互授業参観を実施し、学生による授業評価アンケートの結果を基に授業改善報告書を作成し、授業改善に活用している。学習支援は、少人数クラスによる学生へのきめ細かい指導のほか、教員等による授業欠席数管理・指導や、基礎学力が不足している学生、進度の早い学生に対応するための特別なクラス編成などが実施されている。クラブ活動や学園行事は学生の自主性を尊重しながら積極的に行われており、地域からのボランティアの要請に対して学生が積極的に参加できるよう支援している。学生の健康管理については、カウンセリングルームと保健室の間にフリールームを設置し、効率よく学生相談に対応している。進路支援は

就職推進委員会が中心となり、就職支援室を整備し、求人案内・相談・適性検査・対策講座等を実施するとともに、多彩な就職支援プログラムを継続的に展開している。

教員組織は短期大学設置基準に定める専任教員数・教授数を充足している。教員の採用、昇格は規程に基づいてなされ、教育研究活動のため、紀要、研究室、研修時間等が確保されている。事務組織は規程に基づき適切に整備され、防災対策、情報セキュリティなども実施されている。FD活動は規程に基づき委員会が組織され、教育研究活動の改善に向けて取り組んでおり、SD活動も規程を整備し業務改善へ積極的に取り組んでいる。

校地・校舎等は短期大学設置基準を充足し、必要な教育機器・備品、施設設備等は規程に基づき整備されている。また、図書館はメディアセンターとして、コンピュータ教室、視聴覚室などとともに整備され充実している。災害対策は規程に基づき避難訓練等を実施しており、学生の通学の安全に対しても配慮している。コンピュータのセキュリティ対策、省エネルギー対策等のほか、教育課程編成・実施の方針に基づき、パソコン等に対する技術的支援等も行っている。

財的資源については3か年連続での収支不均衡の状態であるが、「第四次中期経営計画」に従い、短期大学部門をはじめとした学校法人全体で財務の安定化に向けた改善が実行されている。

理事長は、寄附行為に基づき理事会を適切に運営しており、適正な管理運営体制が確立している。評議員会は寄附行為に基づき適正に実施され、監事は学校法人の業務及び財産状況について、適切に業務を執行している。学長は短期大学の教学のリーダーとして、教授会を運営し、教学の運営体制を指揮している。事業計画及び予算は「第四次中期経営計画」に基づいて各部門からの意向を集約し策定され、決定された事業計画・予算は部局長会議等を通して関係部門に指示され、執行されている。教育情報及び財務情報もウェブサイトで公表・公開されている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマA 建学の精神]

- 建学の精神を1年生全員を対象とした新入生オリエンテーションにおける「敬天愛人」講座で説明するとともに、振り返りシートを書かせるなどで理解を深め、ま

た「野の花」(建学の精神「敬天愛人」講話集)を1年生全員に配布するなど、周知方法の工夫を行っている。また職員に対しても「互礼会」などの機会を通じて建学の精神を絶えず確認している。

[テーマ C 自己点検・評価]

- 自己点検・評価において得られた認識・課題を次の改善に結び付けるために、各委員会が改善計画を策定し、年度末に達成度の評価を行うなど、自己点検・評価に全学で取り組み、実施する体制が整備されている。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 教育課程編成・実施の方針にも明記されている、少人数のクラス編成のみならず、毎週水曜日にクラスアワーを設けて担任及び学生が話し合いを持つことで、クラスごとの帰属意識を高め、お互いのコミュニケーションや他者を思いやる心の育成などを効果的に高めている。
- 推薦入学試験の志願条件として、「欠席日数が12日以内であること」等を設けていることが入学後の授業参加への姿勢につながり、当該短期大学における授業欠席率及び退学率の低さに表れている。

[テーマ B 学生支援]

- 県外の施設を利用した学外オリエンテーションを行い、そこで上級生のチューターを中心にガイダンスを行い、学生の中に一体感や仲間意識、身近な目標や具体的な学生生活のイメージを抱かせることができ、スムーズに学生生活に適應できるようにしている。
- 学習成果の達成に向けた一つの指導方針として、個々の学生の授業欠席数の管理を徹底しており、科目ごとに欠席数が2回に達した学生については「授業欠席者報告書」を教務係に提出するとともに、その報告書を基に教務係とクラス担任が当該学生に対して出席を促すなどの指導を随時行っている。
- 基礎学力不足の学生対策、あるいは能力の高い学生の更なる向上という両面からアプローチできる手法として、少数科目ではあるが、入学前の3月末に行われる事前説明会において入学前試験等を実施しており、その結果を基にピアノや英語、国語などの科目に関しては能力別の特別クラス編成をするとともに、クラスごとの目標を立てきめ細かい学習支援に努めている。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ A 人的資源]

- 研究の充実と奨励を図るため、「学校法人千葉敬愛学園プロジェクト補助金交付規程」を整備し、年度単位の特別枠として、個人研究費に加え、個人あるいは共同研究者が自発的に計画する多様な学術研究に対する支援として研究助成費(「プロジェクト補助金」)を設け、研究活動を奨励している。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

[テーマ C ガバナンス]

- 常任監事が置かれ、財産及び業務について適切な監査を行い、常務理事会へ報告している。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ A 人的資源]

- 教員は教育に多くの時間とエネルギーを注いでいるが、研究活動は活発とはいえず、紀要に投稿するなどの更なる充実が望まれる。

[テーマ D 財的資源]

- 過去 3 年、入学定員充足率は 120 パーセント以上となっているが、学校法人及び短期大学で過去 3 年について帰属収支が支出超過である。学園全体として収支不均衡の原因を分析し、その対策が取られているので、今後も改善のための努力を全学的に続けられたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

基準	評価結果
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ 教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ 教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス	合

各基準の評価

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

当該短期大学において、建学の精神「敬天愛人」が確立され、「真理を敬い、他者を愛する心を培う」を教育の基本（理念）と定めている。建学の精神は、学生に対しては学外オリエンテーションにおける講話、職員に対しては互礼会などの機会を通じて周知されており、また建学の精神に基づく使命感と奉仕の精神を持つ教育・保育者の育成に取り組んでいる。

建学の精神の下、教育目的を明確に定めるとともに、小学校・幼稚園教諭、保育士の養成を目指して 5 項目の「具体的な教育目標」を掲げている。これらはウェブサイト、学校案内などを通じて学内外に表明されている。

学習成果は、「入学者に対する卒業生の割合」、「二つ以上の免許・資格を取得した学生の割合」、「取得免許・資格を生かして就職した学生の割合」により把握し、量的・質的データを測定している。また平成 23 年度より、教務委員会及び FD 委員会が「学生実態調査（学習成果）」を実施しており、入学時からの成長及び 1 年間の学習成果の達成度等を集約し、その結果を授業改善に生かすなど、質的・量的データとして測定する仕組みを有している。また、こうした成果を振り返り、教育課程編成等の見直しを行うなど、定期的に点検がなされており、PDCA サイクルが実践されている。

自己点検・評価のため、「千葉敬愛短期大学自己点検・評価委員会規程」をはじめ関連規程が整備され、自己点検・評価委員会が設置されている。自己点検・評価活動は全学的に行う体制となっており、各委員会を単位として点検・評価を実施し、委員会ごとの事業評価を基に次年度の計画と達成目標が具体的に示されるなど、継続して改善を生むシステムが確立され、よりよい教育研究活動を志向して向上・充実に努めている。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針は明確に規定されており、短期大学案内等に掲載され学内外に周知されている。学位授与の方針は、建学の精神及び教育目的に掲げる教育力・保育力・人間力を備えた学生に卒業を認定、学位を授与すると定められているが、これらの表現方法がより具体的であることが望

ましい。教育課程編成・実施の方針及び入学者受け入れの方針は、学習成果の一つである二つ以上の免許・資格の取得に基づく構成となっており、特に教育課程編成・実施の方針においては学習成果の獲得に向けて、少人数制クラス編成や厳格なる出席数管理、クラス担任制による指導を実践している。

教育課程は教育課程編成・実施の方針に基づき、編成の中心に学生のニーズや基礎科目の重視、少人数制及びクラス担任制等によるきめ細かな指導等を置き、五つの具体的な教育目標を具現化するものとして編成されている。シラバスには各教科の到達目標等、必要な項目が記載されており、成績評価は明確な評価基準によって行われ、教育の質保証に向けて厳格な運用がなされている。また、幼稚園・小学校・保育所などの就職先への就職学生評価を実施することによっても、この成果があがっている。教育・保育実習先からの卒業生に関する聞き取りにおいても良好な評価となっており、教育の効果が表れている。

学生支援として、前後期末に学生による授業評価アンケートを実施し、教員はその結果に基づいた授業改善報告書を提出して次年度の授業方法や内容の改善に活用するとともに、教員同士の相互授業参観も実施し教育の向上・充実に取り組んでいる。また、学習支援及び生活支援については、学外オリエンテーションを実施している。このオリエンテーションは、教職員だけではなくチューターとして2年生も同行し、学生生活に必要な事柄の模範を示しながら1年生の指導に当たっており、建学の精神の理解とともに短期大学生活への意識を高めることに役立っている。また、教員等による授業欠席数管理・指導、基礎学力が不足している学生、進度の早い学生に対応するための特別なクラス編成や少人数のクラス担任制によるきめ細かな指導などが組織的に行われ、効果的に機能している。メンタルヘルスケアについては、カウンセリングルームに非常勤のカウンセラー1人を配置し対応している。

進路支援は就職推進委員会が中心となり、就職支援室を整備して適性検査・対策講座等を実施するなど、質・量ともに充実した就職支援プログラムを継続的に展開している。また、文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」に選定された「就職意欲を育てるキャリアデザインプログラム」を引き継いで、就職活動時期を迎える前に職業意識が育成されるよう全員参加型の2年間のプログラムを作成し実施している。退学率は極めて低く、二つ以上の免許・資格を取得しそれを生かして就職する学生の割合は9割を超えている。さらに卒業後の学生を在学生のためにゲスト講師として招くなど、卒業後支援と在学生支援を一体化し、地域に対しても学生、教員がそれぞれに当該短期大学の特性を生かした形で貢献活動を広く行っている。

入学者受け入れの方針には、入学前の学習成果として把握・評価する内容が明確に示され、入学者選抜の方法も入学者受け入れの方針に対応しており、広報・入試事務の体制も整備されている。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

教員組織は、短期大学設置基準を充足し、教員の採用、昇格は規程に基づいてなされている。教員の教育研究活動においては、紀要、研究室、研修時間等は確保されて

いるが、研究活動にはより一層の進展が望まれる。特色ある活動として、「総合子ども学研究所」の取り組みがあり、研究所と連携してオムニバス形式で専任教員全員が各専門分野の観点から「子ども」を論じる「現代子ども学Ⅰ・Ⅱ」の講義を担当し、学習成果の向上に寄与している。

事務組織は規程により整備され、事務局長・事務室長の明確な責任体制の下に業務を遂行しており、備品の管理、防災対策、情報セキュリティなどが適切に行われている。人事管理は就業規則はじめ諸規程を整備し、適切に管理運用されている。

FD活動は規程に基づき委員会が組織され、教育研究活動の改善に向けて取り組んでおり、SD活動は規程を整備するとともに、終業後に学習会も行われるなど、業務改善へ積極的に取り組んでいる。

校地・校舎は短期大学設置基準を充足しており、体育館・運動場なども整備されている。必要な教育機器・備品等は整備され、平成14年、図書館と情報センターが統合され、現在は「敬愛大学・千葉敬愛短期大学メディアセンター」として、コンピュータ教室、視聴覚室などとともに整備され、十分な蔵書を備えている。

施設設備の整備、管理は規程に基づいて行われ、災害対策も規程に基づき避難訓練等を行っている。また学生の通学の安全に対しても配慮している。コンピュータのセキュリティ対策、省エネルギー対策なども適切に行われている。

教育課程編成・実施の方針に基づき、パソコン等に対する技術的支援等を行っている。パソコン教室の他、視聴覚教材にも対応した設備は授業以外でも活用されており、パソコン教室フロアには情報担当スタッフが常駐し、学生や教職員の支援に当たっている。

財的資源については学校法人全体、短期大学部門ともに3か年連続での収支不均衡の状態であるが、その状況を適切に把握・分析し、第四次中期経営計画（平成22年度～平成26年度）を策定しており、当該計画に従い、短期大学をはじめとした学校法人全体で財務の安定化に向けた改善が堅実に実行されている。人件費の削減に向けて理事長は率先して教職員に状況の説明と改善策の理解を求める努力が進められ、教職員と連携した安定化策が計画・進行されている状況であり、短期大学においても平成26年度より定員増を行うなど、計画的な対策がとられ、十分な改善が見込まれる。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事長は学校法人を代表し、寄附行為に基づいて理事会を招集し適切に運営している。理事会は、学校法人と短期大学運営のために寄附行為その他の規程を整備し、理事もその規定に従って選任されるとともに、適正な業務に努め、理事長のリーダーシップの下で適正な管理運営体制が確立している。

学長は「千葉敬愛短期大学学長選考規程」に基づいて選考され、建学の精神に基づく教育研究活動を推進し、教授会を開催し、適切な議事録を作成している。教授会の下には「千葉敬愛短期大学教務部委員会」、「千葉敬愛短期大学学生部委員会」等が組織され、教学の運営体制を確立し、学長はリーダーシップを発揮している。

常任監事1人が置かれ、非常勤の監事とともに、学校法人の業務及び財産状況につ

いての監査を行い、毎会計年度、監査報告書を作成し、理事会及び評議員会に提出している。また、常任監事は常務理事会に出席して意見を述べるなど、適切な業務を行っている。評議員会は年 4 回開催され、学校法人全体の事業計画、予算・決算等の重要事項について審議しており、評議員は寄附行為に基づいて理事の定数の 2 倍を超える人数が選任されており、理事長の諮問機関として適切に運営されている。

ガバナンスについては、学校法人及び短期大学は、平成 22 年度から平成 26 年度までの第四次中期計画を策定し、それに基づいて各部門からの意向を集約した事業計画及び当該年度予算を策定している。決定された事業計画及び予算は部局長会議等を通じて関係部門に指示され、適正に執行されている。現在、学校法人の財政状態が収支不均衡となっているが、それに対しても適切な分析に基づき改善計画が立てられ、実施されており、ガバナンスは有効に機能している。また、関係法令に基づき、教育情報及び財務情報をウェブサイトで公表・公開している。

選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは 4 基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4 基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

教養教育の取り組みについて

総評

教養教育の目的・目標は、免許・資格の取得において必要な教養を身に付けると同時に、教育・保育の現場を意識し、即戦力として通用する力を育成することと定められている。

教養教育の内容は、「日本国憲法」、「情報処理」、「英語コミュニケーション」、「基礎体育講義」、「基礎体育実技」などから構成されている。これらの科目は小学校教諭二種免許状・幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格を取得するための必修科目として、全員が履修することになっており、教育課程が定める教養教育を実施する体制が整っている。

教養教育を行うに当たって、基礎学力が不足している学生、あるいは進度の早い学生に対応するために、学力（技能）差が現れやすい「器楽Ⅰ・Ⅱ（ピアノ）」、「国語」及び「英語」の授業では、特別なクラスを編成している。また、学習成果の獲得を確実にするために、クラス担任制を設け、担任が学習指導を個別に行う方法も確立されている。また、教養教育の効果は関連科目の単位取得によって測定・評価されるだけでなく、免許・資格の取得によっても図られている。

さらに、前回の第三者評価の指摘事項を受け、「現代子ども学Ⅰ・Ⅱ」、「倫理学」、「数学入門」の科目を設置し、平成 24 年度からは「文章表現法」や「自然科学」を開講し、教養教育の改善にも積極的に取り組んでいる。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 教育者・保育者としての適性を高め、社会との関わりを深めるために必要な教養を身に付けることを目標に置き、厳選された教養科目が設置されている。さらに、教養科目を通して学んだことが、小学校や幼稚園や保育所などにおける実習において実践されるような体制が整っている。

職業教育の取り組みについて

総評

当該短期大学では、職業教育を支援・推進するために就職推進委員会を設置し、「千葉敬愛短期大学就職推進委員会規程」を基に教員4人と事務職員2人によって構成され、就職支援としての求人票の管理・公開をはじめ、適性検査・面接指導・各種対策講座の開講と講師招聘、既卒者への就業斡旋などを行っている。

さらに職業教育の取り組みとして、平成21年度文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」において、「就職意欲を育てるキャリアデザインプログラム」が選定されている。このプログラムでは、勤労意欲を高めるとともに勤労の大切さを学ばせるために、講座・セミナー・ガイダンスを設け、現職の小学校長・幼稚園長・保育所長等を中心とした講話も実施している。

また、リカレント教育として、社会人を対象に「社会人特別入学試験」を活用して受け入れを行っており、平成23年度からの3年間で8人の社会人を受け入れ、リカレントの場としての役割を果たしている。また、小学校教諭二種免許状の取得を目的とした科目等履修生の受け入れも積極的に行っており、平成22年度からの3年間で17人を受け入れている。なお、これらの職業教育の取り組みの検証として、当該短期大学では「学生実態調査」を行っており、その結果を基にして学生のニーズに合わせた職業教育プログラムの改善を継続して行っている。

さらに、職業教育の取り組みに対する検証結果を受け、課題の把握と改善を図っている。多数の職業教育プログラムを実施しているものの、プログラム開設の時間帯の不便さ等により、年々学生の参加率が低下していたという課題に対しては、職業教育を必修科目として単位化し、1年次後期に「敬天愛人・キャリアサポートⅠ」、2年次前期に「敬天愛人・キャリアサポートⅡ」という科目名で展開することにより、建学の精神の理解向上も含めて、学生のキャリア形成を培う職業教育・就職支援と位置付け、新たに実行されている。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 当該短期大学の「就職意欲を育てるキャリアデザインプログラム」が文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」に選定されるなど、学生の就職意識の向上に対して努力している。
- 職業教育と建学の精神の理解を目的として、1年次後期に「敬天愛人・キャリアサポートⅠ」、2年次前期に「敬天愛人・キャリアサポートⅡ」という科目を設定し、これを必修科目として単位化することにより、就職に対する基礎学力の向上も含めて学習成果全体の意識の向上を図っている。

地域貢献の取り組みについて

総評

当該短期大学は、地域の初等教育・幼児教育・保育の発展に寄与することを目的に、「総合子ども学研究所」を設立した。この研究所が中心になって、平成 21 年度からは「現代子ども学」講座を公開し、千葉県下の小学校、幼稚園、保育所の教育関係者や地域の住民を対象として、平成 24 年度までに 7 回開催し、毎回多数の参加者を集めている。

小学校教諭二種免許状の取得を目指す学生は、佐倉市教育委員会と八街市教育委員会が主催する「通学合宿」のカウンセラーやリーダーとして参加し、小学校高学年の生徒たちが親元を離れて体験する集団生活の支援を行っている。

また、千葉県知的障害者福祉協会主催の「さわやか芸能発表会」では、毎回 30 人前後の学生が、知的障がい者福祉施設の利用者によるダンスや合唱、演劇などの発表会の円滑な運営に協力している。

さらに、佐倉市の委託事業として、「夏休み子ども向け公開講座」を開き、音楽、図画工作、理科、英語、国語の 5 講座で、市内の小学生に対して夏休み期間の自由研究課題などの学習支援を行っている。

東日本大震災に際しては、千葉県庁総務部学事課幼稚園振興室との連携による緊急支援として、臨床心理士資格を有する教員 2 名が子どもの心のケアに関する保護者相談等の被災者支援活動を行っており、日本子ども学会後援の「東日本大震災・子ども応援プロジェクト」小豆島サマーキャンプの支援には学生 3 人が参加し、東日本大震災発生後の 4 月から月に 2 回程度、のべ 12 人の学生が東北に向かい、がれきの撤去、傾聴、炊き出し等の活動を行うなど、学生の自主的なボランティア活動もなされている。

また、学校に通えず家庭にひきこもっている児童生徒のために、毎年十数名の学生が「引きこもり対策事業」を船橋市教育委員会とともに進め、引きこもりがちな子どもたち一人ひとりに応じた相談や支援活動を行っている。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 地域の初等教育・幼児教育・保育の発展に寄与することを目的に設立された「総合子ども学研究所」が主催する公開講座「現代子ども学」は、千葉県下の小学校、幼稚園、保育所の教育関係者や地域の住民を対象として、平成 24 年度までに 7 回開催し、毎回多数の参加者を集めた。
- 佐倉市と八街市など周辺市教育委員会が主催する「通学合宿」や「夏休み子ども向け公開講座」に協力し、地域社会の教育機関及び文化団体等と交流活動を積極的に行っている。